

神奈川県立山北高等学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和7年度 山北高等学校 第1回 学校運営協議会
開催日時	令和7年7月3日(木)15:30～17:30
開催場所	山北高等学校 A棟2階会議室
出席者	有識者、関係行政機関の職員、地域住民、保護者、当該県立学校長と職員
会議資料	1. 教員の働き方改革加速化宣言について 2. 学校案内 3. 令和7年度(2025年度)学校要覧 4. 令和7年度(2025年度)進路の手引き 5. 山北高等学校の探究 6. 私費会計令和6年度決算報告及び令和7年度予算概要案
議事録	<p>【次第5:協議】 (1)学校経営方針について(校長より) ※資料2、3 ・総合的な探究の時間への取組みが7年目を迎える。「3年間で5単位」とカリキュラムの上でウエイトが高く、進学率アップにも繋がっている。 ・部活動の専門指導者が限られていることもあり、体育コースがあった頃から比べると部活動加入率が下がっているが、今年度、男子バレー部とカヌー部が関東大会へ出場している。今後も伝統を守っていきたい。 ・日々の学校生活において自他を思いやる心と他者理解を生徒たちに学んでほしい。</p> <p>(2)教員の働き方改革加速化宣言について(校長より) ※資料1 ・働き方改革を鑑み、電話対応等についてマチコミで周知済みである。現時点で保護者からクレーム等の指摘はないが、今後も趣旨をご理解いただきたい。 ・長時間勤務是正の必要性は本校の状況にも当てはまる。 ・本来の業務に注力できる環境作りとして、電話対応の時間帯等を見直した。また、2名の業務アシスタントの活用を促進するとともに、外部人材のサポートとしてSC、SSWから多くの支援を得ている。 ・働きやすい職場環境作りとして、校務DXを運用している。その一例である欠席連絡システムは、今後、保護者への連絡システムとしても活用できるよう、準備が進められている。また、大型電子黒板活用による授業作りが定着してきているが、テスト採点システム導入により、さらに成績処理に係る作業の効率化が期待される。</p> <p>(3)学校教育計画及び学校評価報告書について(各グループより) ※資料3、4 ○教育課程、学習指導について(学習支援グループより) ・子どもたちの第一志望を叶えるために支援していく。学力を上げることがその支援に相当するが、学ぶのは子どもたち自身である。ICTの活用等により学ぶ環境を充実させていく。また、職員へのサポート研修として採点システムの使い方を指導していく。 ○生徒指導・支援について(生活支援グループ、生徒会指導グループより) ・日々の生活において規範意識を醸成していく。 ・指導、支援共に増加傾向にある。かながわサポートドックの効果的な運用、SC、SSWとの協働や警察による非行防止教室等、外部からの支援を活用していく。 ・昨年度、バイク通学や、校内外での喫煙等の生徒指導事案が発生している。近隣でそのような行為を見かけたら、学校へご一報いただきたい。 ・日常から「不適切な動画撮影をしない、SNSに投稿しない」の教育を行っているが、職員がアンテナを張ることができる範囲は限られている。昨年度から警察との連携により、非行行為防止に取り組んでいる。 ・生徒の主体性、自らから考えて他者と協働する力を育てていきたい。多くの時間を費やす状況も予測されるが、教員に誘導されるのではなく、失敗から学ぶことも貴重な成長過程と捉える。 ・文化部を増やしていきたいが、教員数が少なく、掛け持ちで顧問を担っている現状においては難しい。</p> <p>○進路指導・支援について(キャリア教育グループより) ・学年ごとの取組み方ではなく、学校としての取り組み方の確立を進めてきた。キャリアグループがイニシアチブを執ることにより、年度ごとに取組み方が変わることがないように調整してきた。 ・学力を測ることに焦点を当てた模試から、3年間を見通した小論文模試への取組に移行し、多様な進路実現をサポートしていく。 ・求人情報のデジタル化により職員の業務負担軽減が図られ、働き方改革に繋がっている。</p> <p>○地域との協働について(広報連携グループより) ・町から多くの支援をいただき、協力体制が促進されている。 ・山北町在住の生徒が少ないが、1学年から山北町を知る取組に従事させ、地域に残る人材の育成に繋げていきたい。 ・幼稚園、小学校との協働に多く取り組んできたが、今年度は中学校との連携にも挑戦したい。</p> <p>○学校管理、学校運営について(総務グループ、教頭より) ・働き方改革の一環として、全県立学校を対象としたオフィス改善計画が進行中である。物理的に職場環境を整備し、業務の効率化や情報の共有化を促進し、職員の良好なワークライフバランスに繋げていきたい。今年度の8月中旬に職員室内の什器が機能的な物に新調される。</p>

・業務アシスタント2名が、本来職員が行っていた業務を担うことにより、職員の業務軽減が図られた。1名の業務アシスタントは管理職の指示に従い会計業務を補佐し、もう1人は教員でなくてもできる作業的な業務を担っている。

**(4) 県指定事業について(広報連携グループより)**

※資料5

- ・地域からの多くの協力により、活動内容が定まり、活動が体系化されてきた。
- ・1学年で実施されるフィールドワークでは「山北を知る」だけではなく、「山北の課題を発見する」ことを視野に入れていく。
- ・1学年で学んだことを素地とし、2学年からは個々の興味関心に応じた6つのゼミを形成する。各ゼミにおいて生徒たちが楽しみながら地域活性化に主眼を置き取り組む。
- ・3学年では1月の発表会や交流会を活かし、地域人材として活躍することへの意欲を高めたい。

**(5) 私費会計令和5年度決算報告及び令和6年度予算概要案について(副校長より)**

※資料6

- ・令和6年度2学年費では、進路費と行事費の執行が少なかったため繰り越しが多くなった。
- ・生徒会費収入の部の雑収入について、文化祭における売上金が多く入った。繰越金は令和7年度予算の行事費に充てている。

**(6) 委員から意見聴取**

○地域住民より

- ・「山北野菜クラブ」のメンバーとして地域で活動している。最近、山高生が地産地消を地域活性化に繋げる取組として、「山北にんにくを使った料理の販売を行った」と聞いたが、私たちを巻き込んだ活動になることを期待している。
- ・災害に備え、山高に地域に関わる活動を期待する。

○保護者より

- ・働き方改革において、「学校が行う必要はない」と判断され、地域や保護者が担い手となることを想定している業務とは、具体的にどのようなものか。
- ➡地域の行事(祭り等)における生徒の安全に係る見回りや、部活動の指導。中学校では地域による指導へ移行しつつある。現在、県の部活動指導員は30名程であり、大会への単独引率も可とされている。
- ・働き方改革を鑑み、職員数不足に応じて部活動の廃部も想定されるのか。「二灯流の山北」と方向性が異なると思うが。
- ➡顧問の掛け持ち、専門性のある指導教員不足の状況において、人的配置が課題となっているが、部員がいる限り、存続する。
- ➡「二灯流の山北」として県に人員配置を要求していく。
- ・探究発表の動画配信は可能か。また、議場を使ってQ&A、行政や議会と連携、インスタグラムやYouTubeの活用など、活動を広げるアイデアを取り入れたらどうか。
- ➡検討していく。
- ・問題行動を起こした生徒は停学になるのか。
- ➡本校は登校させ、別室指導を行う。
- ・不登校生徒に対するオンライン授業の実績はあるのか。
- ➡実績はない。生徒が登校できるよう、取り組んでいる。
- ・「在宅であっても、オンライン授業への参加により、出席と見なされる」等、不登校に対する学習保障の体制はあるのか。
- ➡昨年度より、県からオンライン授業に係る方針が示されているが、運用条件があり、現時点で本校に該当するケースはない。

○有識者より

- ・これまでの山高の取組がよく伝わった。今協議を受け、3つの提案をする。

①志願者数定員割れの状況について

探究活動の中で山高をアピールする1分程度の動画制作に取り組むのはどうか。生徒が日々、利用する飲料販売機の商品やトイレなどが生徒目線の動画でアピール力を発揮している事例もある。

②生徒支援について

子供たちの間で、AIへの相談が流行っている。チャットボットへの相談が自治体の相談機関に繋がる、などのシステムがあると有効ではないか。

③オフィス改善計画について

オフィス改善の実施には多くの労を費やすことになるが、「移行したら案外対応できる」との印象も想定される。今機会を有効に活用することを期待する。